

ふるさと 資料紹介

= (52) =

史料と地名からみた 地区の歴史⑦

古井 (三)

江戸時代の下古井村は、尾張藩領と旗本領(伏屋氏と神氏)にほぼ二分されていた。

上古井と同じように河岸段

丘であるため水田の適地が少ない反面、林野が多く、上古井村との入会(共同)の草野が二九町歩ありました。寛政年間、戸数五〇、人口二四三人でした。明治五年には、戸数六〇、人口一五一人でした。江戸時代後期に作成された「中山道分間延絵図」には、上古井村地内に太田の渡しと船頭小屋が描かれています。

◀ 古井神社の祭礼



中富町の古井神社は、明治四一年、中富、清水、津島、八王子神社が合祀されてできた神社です。そのうち、中富神社は、美濃国神名帳の富貴明神に当たるといわれます。社伝によれば、創建は天暦五年(九五一年)と古く、安元二年(一一七六年)に領主源頼政が社地を寄付して社殿を建てたとされます。

今回は、次の方から貴重な資料を寄贈いただきました。ありがとうございました。

(平成七年九月分)

○考古資料 二点

(大竹尹さん/蜂屋町)

○ムシ口織り機など 二点

(藤木登さん/野笹町)

文化課(公内四〇八)まで

情報をお寄せください。